

機関番号：3 2 6 8 0

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008 ~ 2010

課題番号：2 0 5 2 0 4 8 0

研究課題名 (和文) 留学生の就職支援のためのビジネス日本語教育の教材・教授法開発のための調査研究

研究課題名 (英文) The Research to develop teaching methods and materials for teaching Business Japanese as a foreign language.

研究代表者

堀井 恵子 (HORII KEIKO)

武蔵野大学・大学院言語文化研究科・教授

研究者番号：7 0 2 7 9 7 6 9

研究成果の概要 (和文):

国内外からの社会的ニーズの高い留学生の就職支援のためのビジネス日本語教育のための調査研究として、中国、ベトナム、タイなどの海外の日系企業の人事担当者ならびに元留学生にニーズ調査を行った。調査結果の分析から、ロールプレイ教材、プロジェクト型教材を開発、教育実践を行い改善をはかりながら、教授法を構築した。口頭表現教育、文書表現教育、読解教育の実践をまとめビジネス日本語教育の評価として CAN-DO-STATEMENT の施策を試みた。研究の発信と活性化のために日本語教育学会テーマ研究会としてビジネス日本語研究会を設立した。

研究成果の概要 (英文):

To develop teaching methods and materials for teaching Business Japanese as a foreign language, I interviewed Human Resources personnel in Japanese companies operating overseas in countries such as China, Vietnam, Thailand, as well as former students who studied in Japan to understand their needs for Japanese language skills required in business.

Based on analyses of the interview results, I developed teaching materials - some using role plays and others using project-based activities. I piloted and improved the materials, and established accompanying teaching methods.

I summarized the practices of educating oral expression, written expression, and reading comprehension. Finally, we tested the "Can-Do-Statement" measure as a way of evaluating Business Japanese education.

I also established the Business Japanese Group as one of the thematic groups of the Society for Teaching Japanese as a Foreign Language to catalyze and promote research in this field.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2 0 0 8 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2 0 0 9 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2 0 1 0 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：日本語教育

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：ビジネス日本語、PBL,留学生 30 万人計画、アジア人財、留学生教育

1. 研究開始当初の背景

経済産業省は、今後の少子高齢化、グローバル化がさらに進む中、主にアジア地域からの優秀な留学生を、企業からのニーズの高い、自国と日本の両方に精通し橋渡しとなることのできる「ブリッジ人材」として活用するため、文部科学省との連携で外国人留学生の日本・日系企業への就職を支援するアジア人財資金プログラムを構想し、平成 19 年度から実施しているが、筆者は、その実現のための調査研究「日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究」の検討委員、ならびに、アジア人財資金構想カリキュラムマネジメントセンター事業委員として、使用するビジネス日本語の教材開発を行い、また、ビジネス日本語の評価である BJT の模擬問題集を出版している。並行して、勤務校で留学生を対象としたビジネス日本語の教育実践を行ってきた。

このように、緒についたビジネス日本語教育をさらに発展させるためには、海外のニーズ調査と、留学生の就職支援のためのビジネス日本語教育の教材・教授法をさらに開発していく必要があると考えた。

2. 研究の目的

留学生の就職支援のためのビジネス日本語教育を構築していくことで、留学生が日本と関係のある仕事をし日本留学経験をその後のキャリアにつなげて豊かな人生を送っていく可能性を高めると同時に、海外展開を進める日本企業、ならびに少子高齢化で労働人口の減っている日本の社会に貢献する。

3. 研究の方法

(1) 海外の具体的なニーズを掘り起こすために、留学生を採用している日系企業の実務担当者ならびに日系企業に就職した日本留学経験者に工作上必要なビジネス日本語の実態についてインタビュー調査をし、その結果を分析して、教材・教授法開発に役立てる。

(2) 調査結果からシラバス・カリキュラム整備とともに具体的な教材・教授法開発を行う。

(3) ビジネス日本語教育現場で、教育実践をしている非常勤講師との連携を測りながら、開発教材の試行をし、振り返りを記述し、教材の改善、教材を生かす教授法を検討する。

4. 研究成果

(1) 平成20年度には、日系企業の進出が盛んなベトナム(ハノイ)、中国(アモイ)の日系企業において、管理職(日本人・外国人)並びに元留学生(日本留学経験者)に対するインタビュー調査計28件を行い、インタビュー内容を、文字おこしの上分析、考察し、留学生に対するビジネス日本語教育に必要な要素を以下のように抽出している。

従来のビジネス日本語教育=敬語教育+ビジネスマナー
ビジネス日本語・ビジネス文化・知識・社会人基礎力 (広義のビジネス日本語)
問題発見解決能力
異文化調整能力
キャリア開発力

また、韓国(プサン)、中国(大連、広州)においてビジネス日本語に関する発表を行い、関係者との情報交換を行った。

並行して、それらにもとづいたビジネス

日本語のロールプレイ、プロジェクト・ベース教材の開発・試行をしながら教授法を検討した。

あわせて、留学生へのビジネス日本語教育を効果的にするためのシニア・サポーターの育成として、大学の生涯教育講座ならびに文化庁委託講座を利用して「留学生のためのサポーター養成」を行った。

その他、ビジネス日本語についての研究の発信を国内外で積極的に行った。武蔵野大学大学院における公開講座シンポジウム「留学生の就職支援のためのビジネス日本語教育を考える」を行った。

(2)平成21年度は、引き続き日系企業の多いタイ(バンコク)の日系企業の管理職(日本人・外国人)並びに元留学生(日本留学経験者)に対するインタビュー調査を行い、結果を分析した。また、オーストラリア、シドニーの国際大会において発表を行うとともに、ビジネス日本語教育を担当するオーストラリアの教員と情報交換を行った。

また、引き続きビジネス日本語のロールプレイ、プロジェクト・ベース教材の試行を続けながら、教授法を検討し、成果を国際大会、学会で発表している。

シニア・サポーターのビジネス日本語教育における役割についても実践と研究を続けた。

(3)平成22年度は、最終年度として、ロールプレイ、プロジェクト型教材のまとめを行い、教授法についてビジネス日本語担当教員間で研究会を開き検討した。ビジネス日本語の口頭表現、文書表現、読解におけるビジネス日本語教育実践をまとめた。

さらに、ビジネス日本語CANDO試行版を作

成し、試行を始めている。

また、シニアサポーター活動についてもまとめた。

これらについては、おってHPに公開する。また、国内外の学会で積極的に発表をした。

さらに、ビジネス日本語教育を発信するため、日本語教育学会内にテーマ別研究会としてビジネス日本語研究会を立ち上げ、代表幹事として、研究会を3回実施した。研究会は毎回満員の盛況であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4件)

堀井恵子、留学生の就職支援のためのビジネス日本語教育に必要なものは何か、茨城大学留学生センター・宇都宮大学留学生センター共催留学生センター・シンポジウム「留学生の就職支援としての日本語教育」報告書、査読無、2008、19-25

堀井恵子、留学生に対するビジネス日本語教育のシラバス構築のための調査研究 中国の日系企業へのインタビューからの考察、武蔵野大学文学部紀要、査読無 Vol.10,2009、77-89

堀井恵子、プロジェクト型ビジネス日本語教育の意義と課題、武蔵野大学文学部紀要、査読無、Vol.11,2010、47-57

堀井恵子、留学生の就職支援のためのビジネス日本語教育のシラバス構築のための調査研究 ベトナム ハノイの日系企業などへのインタビューからの考察、武蔵野大学文学部紀要、査読無、Vol.12,2011、79-92

〔学会発表〕(計 10 件)

堀井恵子、留学生に対するビジネス日本語教育のシラバス構築のための調査研究 中国の日系企業へのインタビューからの考察、日本語教育学会春季大会予稿集、191-192
2008 年 5 月 25 日、東京(首都大学東京)

堀井恵子、プロジェクト型ビジネス日本語教育の実践と課題、日本語教育学国際大会
2008 年 7 月 11 日、韓国釜山(釜山大学)

堀井恵子、ビジネス日本語教育最前線、中国日本語教学研究会 2008 年度、日本語教育・日本語研究国際学術研究討論会、2008 年 12 月 14 日、広州(広州大学)

堀井恵子、文化スキーマ分析からみた日本人派遣者の異文化コミュニケーション上の課題、海外経営専門職人材養成プログラム
早稲田大学コンソーシアムシンポジウム、
2009 年 3 月 7 日、東京(早稲田大学)

堀井恵子、グローバル人材に必要なリテラシー(言語能力)とは何か?どのようにその力をつけるのか 言葉の役割と言語教育から、文部科学省海外経営専門職人材養成プログラムセミナー、2009 年 6 月 25 日、東京(早稲田大学)

堀井恵子、プロジェクト型ビジネス日本語教育の実践と課題 2、JSAA-ICJLE2009 国際研究大会、2009 年 7 月 14 日、シドニー、(ニューサウスウェールズ州立大学)

堀井恵子、留学生の就職支援のためのビジネス日本語教育において日本語教員に求められるものは何か、日本語教育学会秋季大会予稿集 pp.285-286、2009 年 10 月 12 日、山形(山形大学)

堀井恵子、アジアにおける日本人経営管理職に求められる異文化調整能力とその育成
言語教育の視点から、文部科学省海外経営専門職人材養成プログラム最終報告会予稿集 pp.22-26、2010 年 3 月 6 日(早稲田大学)

堀井恵子、近藤彩、海外におけるビジネス日本語教育の課題 グローバル人材の能力とその育成、2010 世界日本語教育大会、2010 年 7 月 31 日、台湾(政治大学)

堀井恵子、奥田純子、粟飯原志宣、「社会につながる、豊かな人材育成」のためのビジネス日本語教育の課題を整理し、デザインを試みる、日本語教育学会秋季大会予稿集 pp.45-56、2010 年 10 月 10 日、神戸(神戸大学)

〔その他〕

シンポジウム：留学生の就職支援のためのビジネス日本語教育を考える、武蔵野大学大学院公開講座 企画・総合司会、2008 年

ビジネス日本語教育、月刊日本語 2008 年 1 月号、アルク

「これからのビジネス日本語教育に求められるものは何か」AJALT 教師会員定例研修会、2008 年

「ビジネス日本語最前線」厦門大学講演、2009 年

現場が求めるビジネス日本語教育を探るーシニアサポーターの導入、月刊日本語 2009 年 8 月号、アルク

座談会「ビジネス日本語の今後を考える」月刊日本語 2010 年 3 月号、アルク

「ビジネス日本語研究会設立趣旨説明」日本教育学会 SIG 第 1 回ビジネス日本語研究会 2010 年 6 月

実践ビジネス日本語ービジネス日本語教育の最先端 WORKSHOP、日本語教師夏季集中セミナー東京日本語学校、2010 年 7 月

ホームページ等

http://www.musashino-u.ac.jp/daigakuin/k_hori/

6 . 研究組織

(1)研究代表者

堀井 恵子 (HORII KEIKO)

武蔵野大学・大学院言語文化研究科・教授

研究者番号：70279769